

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	利府こども発達センターどんぐり（児童発達支援事業所）			
○保護者評価実施期間	7年 2月 1 日 ～ 7年 2月 28 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数)	16
○従業者評価実施期間	7年 2月 1日 ～ 7年 2月 28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	7年 月 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	母子通園の施設なので、常に保護者との話あいを持つことができこどもに対する困りごとや発達に関しての疑問も一緒に考えて行くことができる環境にある。子どものちょっとした成長を親が直接みたり感じることができる。親同氏の関りや情報共有も日々行うことができている	保護者の疑問、悩みをしっかりと受け止めながら、個別で対応するのではなく部署内職員の中で、共通理解ができるよう常に話し合いを持ち、保護者に返すようにしている。子どもの変化や成長は小さなことでも言葉にして保護者に伝え、子育てに自信を持ち楽しく活動に参加できるよう工夫している	通園施設に母子通園で通ってくる保護者だが、それぞれの考えを持っているので、画一的にならないよう気を付けながら楽しく登園できる施設でありたいと思う。親のニーズをしっかりと受け止められるよう柔軟な体制がとれる環境を作っていきたい
2	センターの中に言語療法士,作業療法士、心理士の専門職が数人いるので、一人一人専門的なアドバイスと指導を受けることができる。また職員も専門的なアドバイスを受けることで、それぞれの資質の向上につながっている	専門職が複数いることで、子ども一人一人に対する指導だけでなく一つのテーマでグループでの話を聞いたり、保護者のニーズに合わせて話し合いを持っている。また、保護者の疑問もスムーズに専門職に聞き、解決法を見つけることができる。	今後もできるだけ専門職の方に積極的に入ってもらい、問題解決に向け話し合える環境を整えて行きたい 保護者へのペアレント・プログラム等の研修を取り入れる予定である
3	職員は保育士、社会福祉士等の資格をそれぞれ持ち、より専門的な療育を行える環境にあり、支援計画等に基づいての療育がおこなわれている。保護者の希望によりレスパイトや地域の保育園・子ども園への送迎、自宅送迎など柔軟に対応している	・保護者との面談を定期的に行い支援計画を立て療育に生かしていけるよう職員間で月1回のカンファレンスを行ってす ・母子通園は基本であるが、状況によってはレスパイトなどを行っている。両親共働きの子も多くなってきて、保育所・子ども園への送迎も行うようにしています。部署内職員だけではなくセンター全体の職員にヘルプをもらっています。	・こどもたちの興味を広げ、経験を増やしていけるよう、教材を考えたり、遊びを工夫していけるよう努力をしています。それぞれの特性や成長をしっかりと把握し、個別に対応していくとともに、集団生活のルールや生活のルールを身に付けていけるよう活動にも工夫していきたいと思います

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別の参加や併用での通園はいますが、地域のこども園や幼稚園との全体的な交流会のような活動がありません	母子通園施設であるため、園として地域のこども園や幼稚園との全体的な交流会のような活動は、おこなうことはなく各自個別での地域のこども園等への参加を呼びかけています。いままで、利用児年齢や発達状況もバラバラで保護者からのニーズもあまり聞かれていないので個別対応ですませていました	地域情報としては、保健師、相談員と共に、保護者にできる限り提供するようにしています。保護者のそれぞれのニーズをくみ上げていけたら良いと思います
2	施設内の活動のスペースが限られていて、狭く感じたり、職員のシフトの関係で、支援職員が少ないと感じてしまうこともある	限られたスペースの中で、定員いっぱいの利用者があると、狭いと感じられる利用者が感じています。活動の内容を工夫しています。職員はシフト制で勤務していて他部署からのヘルプで入ってもらうのですが、人数が足りないように感じてしまう利用者がいるのだと思います	施設のスペースや活動の場所を変えることは難しい面があるので、活動内容の工夫が大事だと思います。職員間で連携を取りながらスムーズな活動が行えるよう十分な話し合いを持って行きたいと思います
3			